

平成 21 年 5 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18320065

研究課題名（和文） 日本海沿岸社会の地域特性と言語に関する類型論的研究

研究課題名（英文） Typological Research on Language and Regional Traits in Japan Sea Region Societies

研究代表者 中井 精一（NAKAI SEIICHI）

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号：90303198

## 研究成果の概要：

プロジェクトでは、国内外の研究者が連携し、日本海沿岸地域をフィールドに臨地調査を実施し、相互に情報交換と討論を重ねるとともに公開研究会を開催し、その成果の公表をすすめた（『日本海沿岸社会の地域特性と文化（平成 18 年科研費報告書）』）。加えて既存データをも含めたデータベースの構築をおこない、その成果は、『朝鮮半島言語地図（平成 18 年科研費報告書）』、『富山湾沿岸グロットグラム調査報告書（平成 19 年度科研費報告書）』、『日本海沿岸の自然環境とことば（平成 19 年度科研費報告書）』、『富山県方言文法地図（平成 18～20 年度科研費報告書）』として公開した。

また、20 年度には、構築したデータベースをもとに、合宿形式の研究会議を実施して、地理情報システムによる分析ならびに言語と言語外要因との関係について、方法論的検討をおこない、最終報告として『日本海沿岸社会とことば（平成 18～20 年度科研費報告書）』を刊行し、研究課題についての研究を進展させた。

## 交付額

（金額単位：円）

|        | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2006年度 | 5,300,000  | 1,590,000 | 6,890,000  |
| 2007年度 | 5,900,000  | 1,770,000 | 7,670,000  |
| 2008年度 | 1,600,000  | 480,000   | 2,080,000  |
| 年度     |            |           |            |
| 年度     |            |           |            |
| 総計     | 12,800,000 | 3,840,000 | 16,640,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：社会言語学

## 1. 研究開始当初の背景

日本海は、ユーラシア大陸温帯地域の沿海部に位置する内陸海という意味で、西の地中海と東西に相対する存在であり、その自然環境は、地中海同様、沿岸地域の歴史的発展ならびに文化形成の過程に重要な影響と役割を果たしてきた。しかしながら、西洋・中東

文明史に関する研究上、地中海の果たした役割がつとに強調され、言語学のうえでも重要視されるのに比較して、日本海沿岸社会が東アジア諸言語に対して与えた影響と役割については、十分に研究されているとはいえない。

また、これまでの言語研究では、個別言語





14: 日本海沿岸地域における中舌母音(吉廣綾子)

15: 文法性判定の多様性に関する社会言語学的研究—真偽判断の副詞と疑問形式との共起関係を例として—(李 舜炯)

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

①真田信治「ある台湾人における言語生活の道程」『方言研究の前衛』 pp. 11-28 2008 年 査読無

②ダニエル・ロング「言語接触論者から見た山口幸洋の言語研究」『方言研究の前衛』 pp. 85-99 2008 年 査読無

③大西拓一郎「静岡方言の文法・語彙 山口幸洋博士による解明とその継承」『方言研究の前衛』 pp. 128-141 2008 年 査読無

④松丸真大「文末詞「ガ」の対照の試み」『方言研究の前衛』 pp. 195-212 2008 年 査読無

⑤中井精一「女性器の方言にみる列島の地域史」『方言研究の前衛』 pp. 460-478 2008 年 査読無

⑥中井精一「地域研究と『方言文法全国地図』—日本語方言研究の新しい可能性をもとに—」『日本語学』第 26 巻第 11 号 pp. 64-74 2007 年 査読無

⑦松丸真大「『確認要求表現』とその分布 —否定疑問形式を中心に—」『日本語学』第 26 巻第 11 号 pp. 140-147 2007 年 査読無

⑧中井精一「ことばの研究にとっての社会—都市をめぐる人びとの心性とことば—」『音声言語研究のパラダイム』 pp. 345-357 2007 年 査読無

⑨中井精一「魚にこだわる日本人」『VESTA』65 号 pp. 8-11 2006 年 査読無

⑩大西拓一郎「『方言文法全国地図』の意義と方言分布研究のこれから」『月刊言語』35 巻 12 号 pp. 20-27 2006 年 査読無

⑪中井精一「天理教原典とやまとことば」『山辺の歴史と文化』奈良新聞社 pp. 257-278 2006 年 査読無

[学会発表] (計 11 件)

①中井精一「現代方言からみた植物利用の地域多様性」総合地球環境学研究所 プロジェクト D-2 2008 年 12 月 7 日 総合地球環境学研究所

②ダニエル・ロング「アメリカのビール景観」総合地球環境学研究所プロジェクト 4-4 2008 年 11 月 15 日 吹田市立博物館

③松丸真大「方言における否定疑問形式とその用法」日本語学会 2008 年度秋季大会 2008 年 11 月 3 日 岩手大学

④中井精一「都市の地域特性と敬語行動—北陸富山と伊賀上野に焦点をあてて—」変異理論研究会 131 回研究会 2008 年 11 月 2 日 岩手県公会堂

⑤鳥谷善史「GIS でことばの変化を描くために—早川谷グロットグラム追跡調査報告—」日本方言研究会第 87 回研究発表会 2008 年 11 月 1 日 岩手大学

⑥ダニエル・ロング「英語を母語とする日本語習得者の音声学的難点と音韻論的限界」第 22 回日本音声学会全国大会 2008 年 9 月 14 日 明海大学 浦安キャンパス

⑦中井精一「外部性の言語学としての方言研究」日本語学会 2008 年度春季大会 2008 年 5 月 17 日 日本大学文理学部

⑧Uchiyama Junzo Creating neighbours or creating periphery? The long-term perspectives on the landscape history of the East Asian Inland Seas', at the International Conference "The East Asian Mediterranean: Maritime Crossroads of Culture, Commerce, and Human Migration", Department for Asian Studies, 2007 年 11 月 2 日 Munich University, Munich, Germany

⑨中井精一「景観・感性・言語「食」の語彙と環境利用システム」第 2 回東アジア方言学国際学術大会 2006 年 11 月 4 日 韓国・慶星大学校

⑩大西拓一郎「言語地理学の再起動」第 2 回東アジア方言学国際学術大会 2006 年 11 月 4 日 韓国・慶星大学校

⑪鳥谷善史「GIS を用いた既存言語地図データベースの試み」第 2 回東アジア方言学国際学術大会 2006 年 11 月 4 日 韓国・慶星大学校

〔図書〕(計 10 件)

①中井精一編『日本海沿岸社会とことば(平成 18~20 年度科研費報告書)』富山大学人文学部(215 頁) 2009 年

②小西いずみ・中井精一『富山県方言文法地図(平成 18~20 年度科研費報告書)』富山大学人文学部(76 頁) 2009 年

③中井精一・東和明・ダニエル・ロング編『南大東の人と自然』南方新社(243 頁) 2009 年

④中井精一・永森理一郎・伊東奈穂編『日本海沿岸の自然環境とことば(平成 19 年度科研費報告書)』富山大学人文学部 (161 頁) 2009 年

⑤濱下武志監修、川村朋貴・小林功・中井精二編『日本海総合研究プロジェクト研究報告 3 海域世界のネットワークと重層性』桂書房(269 頁) 2008 年

⑥中井精一『富山湾沿岸グロットグラム調査報告書(平成 19 年度科研費報告書)』富山大学人文学部 (139 頁) 2008 年

⑦中井精一・市島佑起子編『日本海沿岸社会の地域特性と文化(平成 18 年科研費報告書)』富山大学人文学部 (50 頁) 2007 年

⑧中井精一・亀山大輔編『朝鮮半島言語地図(平成 18 年科研費報告書)』富山大学人文学部(249 頁) 2007 年

⑨内山純蔵『縄文の動物考古学：西日本の低湿地遺跡からみえてきた生活像』昭和堂(234 頁) 2007 年

⑩真田信治監修、中井精一・ダニエル・ロング・松田謙二郎編『日本海総合研究プロジェクト研究報告 4 日本のフィールド言語学』桂書房(335 頁) 2006 年

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中井 精一(NAKAI SEIICHI)  
富山大学・人文学部・准教授  
研究者番号：90303198

### (2) 研究分担者

ロング ダニエル(LONG DANIEL)  
首都大学東京・オープンユニバーシティ・准教授  
研究者番号：00247884

### (3) 連携研究者

真田 信治(SANAEDA SHINJI)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：00099912

大西 拓一郎(ONISHI TAKUICHIRO)  
独立行政法人国立国語研究所・研究部門・主任研究員  
研究者番号：30213797

内山 純蔵(UCHIYAMA JUNZO)  
総合地球環境学研究所・研究部・准教授  
研究者番号：40303200

鳥谷 善史(TORITANI YOSHIFUMI)  
天理大学・文学部・講師  
研究者番号：30412133

松丸 真大(MATSUMARU MICHIO)  
滋賀大学・教育学部・准教授  
研究者番号：30379218